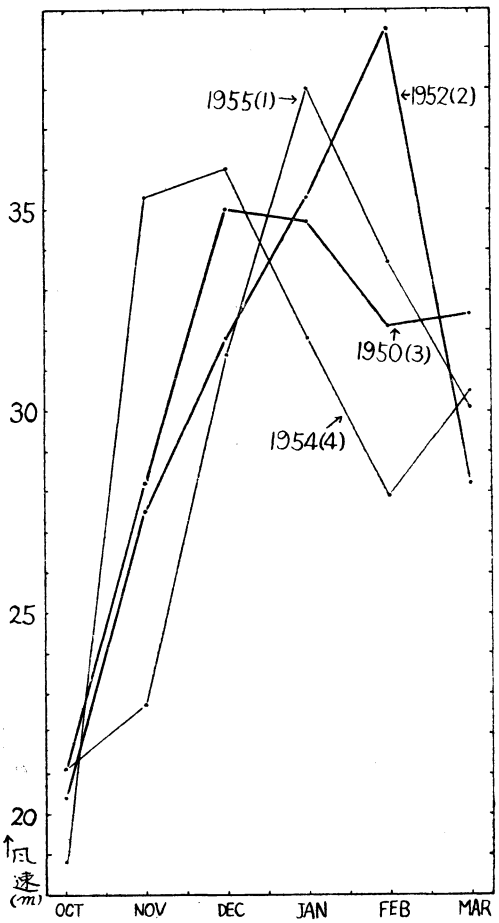

第 3 図　各型の北緯 35° における風速の月変化

温寡照傾向が強い．）

これら各型の梅雨の性質の一端が東京の日照にあらわれている．即ち 6 月と 7 月の日照率の和をかりに梅雨期の日照指数とすると，第 1 表に示すように日照指数は 1 型が90，2 型60～70，3 型70以上，4 型40台となっている．勿論すべての年についてこのように整然とした数値関係が得られるとは考えられないし，また東京の気候的地域代表性も検討する必要がある．しかし梅雨の一般的な性質は示されていると思う．さらに前にのべた梅雨的性質に関しても，梅雨の入りからあけまでには中休みもあり，種々の状態があるので詳細な検討を要する．しかし統計年数も少ないので，強風軸の変化およびそれに伴なう弱風軸の変化，それらに対応する地上高緯度高気圧，中緯度高気圧，三陸高気圧および低気圧経路等と共に，資料の増加をまってその調査を行ないたいと考えている．

以上 9 カ年について偏西風プロフィールを 4 つの型に分類したが，この外にも種々の複雑な出現型式を示すであろう．しかしこの結果は，1 型的なもの（比較的高温多照型の梅雨）と 2 型的なもの（比較的低温寡照型の梅雨）およびその中間型的なもの（2 型的なもの 3 型的なもの）とおおよその判別をすることによって梅雨に関する概略の長期予想の可能性を示すものではなかろうか．しかしこれらのことはまだシノプティックに検討されておらず，また統計年数も少ないので見掛上の現象であるけねんがある．しかし最近 9 カ年の検討結果を中間的に報告する．

「雲　鏡」

＜予報発表のデラックス＞　ク・サ・キ生

一年ほど前「明日は北西の風，晴れたり曇ったり，この予報の当る確率70%」と言う具合に，天気予報に確率を加えて発表したら？　と半ば冷やかし半分にこの欄で提唱したら，某氏から意外に激励？　の辞を得た．それから半年ほど経って京阪地方の天気予報をＡＢＣ（朝日放送）で聞いていたら明日は「雨が降りそうにもありますが，この前線は弱いために案外曇でとおるかも知れません」などと気象情報をたくみに識り込んだ天気予報を聞いて感心した経験がある．さいきん九州管内のテレビで発表する予報では風景が出たり童謡人形を使ったりして人目を引いているから予報発表の形式もだんだん改善かつ多種になってきているし，またそうなるべきだと思う．予報を出すまでの労苦（例えば気象観測，天気図作成等）が大きいのだから，も少しモッタイを付けて，Variety な形式にしてもいいような気がする．前述の確率追加もだが，予報の後に，担当は＜山川予報官でした＞等といれると，＜山川さんのはよく当るわね＞てな具合にならないかしら，とにかく予報発表は，当るにせよ当らないにせよ，デラックス版と行きたいものである．